

一
般
の
部

特選

歎異抄手擦れてゐしが徹びてゐず

有馬朗人選

豊中市 小畑晴子

能面を打ちたる人と春惜む

奈良県 濱坂みち子

稲畑汀子選

玉虫を拾ひ蓑虫庵に腰

大阪市 田島もり

蕉風を今に伝へて翁の忌

神戸市 池田雅かず

茨木和生選

瓜坊の猪突猛進あなどれず

宝塚市 廣田祝世

花万朶夜は無人と成る島の

北九州市 永田英子

宇多 喜代子 選

手話の指清流となり鮎となり
東海市 加藤 久子

鐘一打千の屋根越え暮の秋
藤岡市 原 美知子

小澤 實 選

鱧の皮たまり醤油の香ばしよ
品川区 蔵田 かをり

蠅虎妻遅き夜の敷布替へ
千葉市 左官屋 宇兵衛

黒田 杏子 選

けもの道四辻のあり滴れり
山梨県 朗善 千津

大南風転任の地へわづかな荷
名古屋市 井上 美保子

坂口 緑 志 選

あかぼしの残る齋庭に茅の輪結ふ
伊賀市 永井 みよ

夕星や縁に忘れし水鉄砲
伊勢市 森下 充子

塩田 薮柑子 選

山開き案内板の真新し

伊東市 深澤美智

空白の句帳虚ろに炎暑の夜

伊賀市 山下葉苗

棚山波朗 選

宇治川の闇を曳きゆく鷓飼舟

奈良市 渡辺政子

待つほどに闇のととのふ薪能

奈良市 池田雪彦

西村和子 選

辿り着き双手に受ける岩清水

津市 小林美智子

ポケットに貫はれてゆく子猫かな

大府市 井村晏通

長谷川 權 選

藍といふしづかな色の浴衣かな

横浜市 三玉一郎

手花火やてんでにあはれ照らしめる

藤岡市 丸山直樹

星野 椿選

百選の水の都の夏料理
伊賀市 松村咲子

水よりも水色濃ゆき額の花
三重県 木戸口眞澄

正木 ゆう子選

目で追って揚羽と時間共有す
常滑市 竹内重美

雀の子飛べぬと見せて飛び立てり
横浜市 秋元 正

三村 純也選

いそいそと下ろす紅緒の踊下駄
名古屋市 村田和司

翔び立ちし螢の匂ひ手に残る
西宮市 杉崎よしこ

宮坂 静生選

大空の資源は無尽鱗雲
世田谷区 石川 昇

赤翡翠これが最後の一目惚
小平市 後藤行雄

宮田正和選

おうおうと山の神呼び山開き

伊賀市 西野登志子

初蝶のふれ合ひて風かがやかす

伊賀市 福田容子

入選

有馬朗人選

迎へ火の煙するりと土間に入る

半田市 竹内 文

朱鷺の舞ふ配流の島や雲の峰

豊中市 渡辺美紀代

火伏神祀る嵯峨野の竹の秋

秩父市 須田 真弓

水飲める国に生まれて蚩狩

浜松市 伊賀 和子

ほろほろと鳴く山鳥や行基寺

豊中市 津田 京子

高円山暮れて月下の地藏盆

名古屋市 光田 道子

夕立や堂に地獄図極楽図

所沢市 鈴木すぐる

十三湖より大粒の寒蜩

秋田市 荻原都美子

木五倍子咲く木地師の里へ山いくつ

所沢市 鈴木 征子

埴輪焼く土師の名涼し登り窯

大阪市 金田八重子

天頂に星のあつまる夜能かな

神戸市 堀 瞳子

義仲寺も近江も烟る時雨の忌

中央区 久塚 謙一

托鉢の列しんしんと冬霧へ

羽曳野市 赤澤 皆

竹を伐れることも修行や永平寺

兵庫県 坂元 初男

峡の田の蓮を台座に磨崖仏

大分市 飯田 東夷

猪垣組む尾根を境に伊賀甲賀

名古屋市 駒木 逸歩

水文字の「龍飛鳳舞」や柳絮飛ぶ

柏 市 三津木俊幸

刻まれし兄の名摩る沖繩忌

香取市 清水 和子

南朝の土の匂ひの葛根堀る

伊賀市 坂石 佳音

カリヨンの古都に遍く白夜かな

名古屋市 市之瀬 肇

稲畑汀子選

旧姓は私も松尾露涼し

渋谷区 丹羽ひろ子

人通すだけに括りし萩の寺

伊賀市 西澤与志子

母の日や卒寿超えしも母恋し

横浜市 松永 朔風

万能の母の手造り柏餅

倉敷市 木村英一郎

銀漢の尾に手がとどく草千里

港区 大久保白村

はかなみて棲みし嵯峨野の秋の人

長岡京市 藤堂くにを

しやぼん玉どの子の息も飛んでをり

高松市 永森ケイ子

風雨てふ試練吉野の初花に

堺市 徳澤 彰子

田の匂ひ風の匂ひの大植田

亀山市 鈴木 秋翠

花合歡の風稜線を迂りゆく

堺市 杉山千恵子

踏み窪む黴の豊や寺無住

尾鷲市 岡村 紀洋

晴れきらぬ雨の余情にほととぎす

伊賀市 北村 みち

虚貝鳴らして寄する波は秋

大牟田市 鹿子生憲二

蜘蛛の囀を毀せし悔のやうなもの

名張市 福山 悦子

句碑の庭沙羅の落花を踏むまじく

堺市 徳澤南風子

満天の星が帰省子迎へけり

大府市 井村 晏通

父逝きしより螢に心寄せ

伊賀市 子日 康子

子の力見せつけらるる苗運び

常滑市 竹内 艶子

蕨糸解きて試着の汗光る

伊賀市 山村 勝子

睡蓮に風のねむたき亭午かな

松阪市 小川 寧子

茨木和生選

山を愛で川を称へて鮎料理	高槻市 武田 和子	ご機嫌に追酒すすむ鱧の皮	枚方市 春名 勲
空蟬の足粗壁を掴みけり	神戸市 堀 瞳子	椿落つ蓑虫庵に井戸二つ	伊賀市 永井 みよ
封人の由来も聞ける夏炬かな	橿原市 今村美智子	冬の霧ただ電柱の続く道	伊賀市 米田 朝子
振り向けば雲の峰負ふ磨崖仏	北海道 遠藤 孝明	大旦海に向ひて合掌す	福井市 藤田フジ子
昔から酒は魔物よ鱧料理	世田谷区 徳永ひと葉	水音の規則正しくばつたんこ	奈良県 池田美砂子
遠目にも八講の荒れ魼に寄す	多摩市 田中 久幸	突堤は鯉釣り湾内鯊を釣る	津 市 服部美佐子
日ざしにも風にも夏の来てをりし	龜山市 鈴木 秋翠	時鳥日照雨過ぎたる森に鳴く	岡崎市 三浦 葵水
けふは夏至よと昼も寝る爺が言ふ	松阪市 池田 緑人	風通し良き部屋ありて籐寝椅子	宇陀市 山本 洋子
菊枕まめで暮らせと届きけり	御所市 上村 佳与	幣掛けていよよ茅の輪となりにけり	伊賀市 福山 良子
鯉船海は漢をかがやかす	志摩市 西尾 敬一	夕すげの咲くまで待ちて下山かな	大和高田市 久保田珠生

宇多 喜代子 選

靴を脱ぐ土間の湿りや秋の暮

春日井市 横井美代子

混雑の小町通りや青嵐

伊賀市 福沢 義男

甚平の赤子の腕の太きこと

伊賀市 森永真里奈

好日やゆつくり巡る薔薇の園

宇佐市 大森美代子

絵日記の象より大きなかぶと虫

三重県 東 優子

青天の不意の空しさ鴟猛る

取手市 金子つとむ

月山の水たつぷりと青田かな

豊中市 名倉 芳子

子に語るアンモナイトの永き夢

浜松市 村松 道夫

一つずつ植田の増えて水の国

朝来市 松本 和子

ころころと粒揃ひけり梅筵

春日部市 石原 道明

筒鳥の一日啼いて昏れにけり

熊野市 平谷 働司

梅雨寒や紅茶に一つ角砂糖

八幡浜市 山口 指月

病む母の血管透ける炎暑かな

大府市 乱 泊

其処此処の絵馬に句もあり初詣

取手市 飯野 正勝

桜薬降るや半紙に心の字

田原市 遠藤えい子

笹舟に切りてプリンスメロン出づ

羽曳野市 赤澤 皆

地方紙に土と包まれ筒来

新発田市 じゃすみん

片蔭の小さくつづく蟹の路地

稲沢市 日比 孝子

牡丹のそばを小さき風通る

岡崎市 和田 陽子

落椿ころがる先は流人墓地

東京都 曾根新五郎

小澤 實選

防火水浮草押して鯉の口

伊賀市 杉谷 美保

グラウンド汗と涙でえぐれたり

伊賀市 服部 歩

寒暁や円空仏の鉦目跡

春日部市 櫻井 俊治

春泥やいそがばまわれにしたがわず

檀原市 茨本 道子

若水の底ひにやどるひかりかな

常滑市 古川 義高

眼裏に敗戦の日の日の丸機

伊賀市 山村 俊夫

貝塚の貝踏むおとに散るさくら

岡崎市 内田 周穂

創業は幕末といふ麴黴

糸満市 平良 幸子

サングラス掛けて車中の脚線美

東大阪市 富田 忍

青空へ真白き薔薇のブーケトス

伊勢市 斎乃 雪

星雲になれず蚊取線香の渦

西条市 砂山 恵子

猪に帰宅電車が停車中

四日市市 三木久美子

一人では脱げぬ老躯や汗のシャツ

茅ヶ崎市 塚本 治彦

花冷の朝のホームの駅員さん

岡崎市 千石 立子

桜咲き矢立初めや歩き出す

小平市 塚田 見留

水抜きし田に日の濃くて豊の秋

伊賀市 山本 智子

鶏の視線の先の雨蛙

伊賀市 林 康子

クーラーと梅酒のロックで幸せだ

名張市 大道 爽香

鯉の呑む水面の落花二三片

神戸市 松村 晋

顔中を口となしたる燕の子

世田谷区 富山 光義

黒田杏子選

命日の星降る島の星涼し

東京都 曾根新五郎

あらがへばあらがふほどの玉の汗

八王子市 福岡 悟

三代の祭浴衣をたたみけり

桑名市 安井加余子

閑居にも鬼灯の花咲きのぼる

一宮市 成瀬 悦子

大夕焼子を呼ぶ声の遠くあり

西尾市 金子 恵美

瑠璃蜥蜴瑠璃煌煌と古墳走す

伊賀市 土井 陽代

深川や吾も旅人都鳥

福島県 宗像真知子

秋祭心浄まる笙の笛

伊賀市 土永 京子

梅雨出水田畑流してなほ猛る

伊賀市 西田ゆかり

豪雨禍の今も過疎村秋立ちぬ

伊賀市 桑原 陽子

打ち水に日の匂ひくる潦

愛知県 平松 京師

太陽と月の光沢さくらんぼ

愛知県 西島陽子朗

古文書を曝書せし部屋風少し

伊賀市 森井まさゑ

梅雨寒や駅のホームの堅き椅子

伊賀市 米田 朝子

ゆるゆると許すおはぐるとんぼかな

北名古屋市 梅田 昌孝

戻る歩に数増す蛍村眠る

常滑市 磯村 久市

八十の母粧へば山粧ふ

塩尻市 神戸 千寛

真直ぐ見し慰安婦像に青葉雨

伊賀市 中嶋 國博

父在りし日の空襲や蟻地獄

佐倉市 小池 成功

ちびゴーヤひとつ下がるや日当りて

浦安市 武部 一成

坂口緑志選

鷹巢立つ平家落人棲みし山

稲沢市 日比 孝子

蒼穹は深き静けさ山法師

伊賀市 米野てるみ

木簡や時代の記憶虫干す

三重県 石井 洋子

浮巢見に行くとして買ふや遠眼鏡

岡崎市 岡田 游子

居間涼しモネの睡蓮掛けしより

岡崎市 小木曾みえ子

万屋の残る里曲や燕来る

伊賀市 島井 節

蟬夕べ素鍛ちの太刀を鏝に鋤く

名古屋市 駒木 逸歩

横恋慕てふ恋をして秋刀魚焼く

鈴鹿市 古川 和子

僧の列緑雨に染まる奥の院

三重県 金津やよい

研ぎて消す鑿の刃毀れつくつくし

伊賀市 下村 哲朗

神の風まづ幣に吹く茅の輪かな

岡崎市 三浦 葵水

羽化をへし薄羽蜉蝣生絹めく

伊賀市 川口 登子

凌霄や軒端に積める蚕の火鉢

名古屋市 坂倉 公子

水温む武者絵幟の糊落し

岡崎市 伊藤 悦子

人参の花を涼しく生けて癒ゆ

伊賀市 宮谷ふさ子

海霧冷えの村に喪の鉦ひびきをり

江南市 中西 定子

神宮の土器焼く杜に雪加鳴く

三重県 木戸口眞澄

干し夜具に残る小春の陽の匂ひ

奈良県 今本 鈴

風光るシヨパン流るるカフェテラス

名張市 岡森 競一

田植祭伊勢路朝より晴れ渡り

西尾市 齋藤 佳織

塩田 藪柑子 選

天高し宇宙探査に期す未来

伊賀市 滝川 瑤星

風蝕の厳しき句碑に蟬の殻

横浜市 本田 真帆

過疎進む地域起こしに蓮の花

姫路市 中野 柚果

帰り来ぬ人待つ里の木守柿

尼崎市 渡邊 昭子

五輪へのカウント・ダウン夏猛る

相生市 吉川 真貴

梅雨寒し透析痕の腕細き

金沢市 山口 黎子

青葉光げ古代の神秘深き墓地

伊賀市 山添 桜花

梅雨寒に野菜高騰食削がる

姫路市 本田 華英

模索する有機農法田草取る

伊賀市 森本 禾穂

盆の月渡海僧侶の墓碑照らす

三重県 湊 章治

高齢の免許返納穴惑い

勝山市 中村佐代子

秋の風忘れ去られし兵の墓

伊賀市 中西 紀歩

故郷は過疎化の兆し山桜

室蘭市 中村かすみ

早朝に帰港列なす夜釣り船

石川県 中田 風光

訪ねきし関の歌碑古る風は秋

赤穂市 田中 花楓

駅出れば白き名城秋夕焼け

姫路市 上田野乃花

遠雷に老後の不安募る夜

京都市 平澤 寥茶

短夜明く一際碧き今朝の空

金沢市 松田 翠風

卯波立ち養殖筏軋み増す

姫路市 山田 青果

老鷺の餌す溪の翁の碑

伊賀市 山森 桂花

棚山波朗選

糶台にこほろぎこぼる花市場

天理市 能登つくも

急ぐ足を奪ひぬなんじやもんじやかな

奈良市 梅本 幸子

売家の土手に一面露のたう

伊賀市 保田ひろ子

梅雨空の晴れ間見つけて畑仕事

伊賀市 福岡 秀明

懸大根軒端明るき大和棟

伊賀市 片山 妙子

盆の月在りし日語る杜鵑草

名張市 福島千枝里

父の日の牛舎に細る鼻木かな

伊賀市 稲森すま子

稲の花和銅の里のしづけさに

伊賀市 下村 哲朗

色鳥来白鳳城の空深く

松阪市 小川 寧子

帆船に夏めく風の青さかな

奈良市 梅本 幸子

山頭火のぶ厚い眼鏡山眠る

伊勢市 中村伊都夫

母の日や母の遺せし桐の下駄

伊賀市 松尾 紀子

柿落葉音を大きく裏返る

津市 西川 玲子

黙禱の影黒々と沖繩忌

那覇市 瀬良垣宏明

潜りても浮きても鳩の番かな

取手市 金子つとむ

鳶の輪は村の大きさ春耕す

伊賀市 米野てるみ

雨音に沈んでゆきし昼寝かな

名張市 森川 和

菜殻火の弾ける音や山暮るる

伊賀市 宮谷ふさ子

鈴鹿嶺へ太鼓ひた打つ山開き

伊賀市 西野登志子

大仏の柱くぐりやこどもの日

奈良市 和田 康

西村和子選

春寒や客は九人の映画館	大府市 乱 泊	茶摘女の衣も緑に染まるらん	志摩市 谷口 ちほ
水に水被せ被さる大瀑布	伊賀市 田畑 寛一	日覆に蔓を這わせて路地茶房	名古屋市 黒野 涼子
地吹雪の底よりもどり郵便夫	青森県 竹浪 誠也	猫を抱く遺影飾りぬ風生忌	西尾市 齋藤 朗笛
蛍の幼き光地を這へる	糸満市 平良 幸子	暮れなづむ比叡の稜線川床涼し	延岡市 森山 栄子
誰彼の消息絶えし年賀状	伊万里市 田中 秋子	茅花撫で朝より燥ぐ試歩の妻	津 市 山本清稀人
神木の楯に寄る梅雨の蝶	生駒市 高嶋 瑞枝	小鼓の一打くぐもる養花天	四日市市 佐藤 径
後継の宮司はをみな夏祓	枚方市 春名 勲	烏にも美声悪声梅雨晴間	三重県 金津やよい
手花火の一瞬描く化学式	宇治市 亀山みか月	百合よりも白きルルドの聖母像	岡崎市 三浦 葵水
胸擦らんばかり水面へ夏つばめ	伊賀市 服部登紀子	月山の風に攫はれ夏帽子	町田市 瀬戸 紀恵
父の日のメール時差越え海を越え	津 市 杉本 和子	汗拭ふ托鉢僧の眼の蒼し	目黒区 清水 吉明

長谷川 權選

灯を消してみてなかなかの良夜かな 札幌市 堺 隆 花を守り名刹継ぎて若き僧 津 市 大川きよ女

海苔搔いて海のひかりを持ち帰る 室蘭市 前田喜美子 花合歓や掛くる言葉のなき見舞 津 市 白木ひろ海

大庇大雪垂れて百戸澄む 室蘭市 前田喜美子 浮きてよりうねりに任せ鮑海女 志摩市 中井 志汐

父の手に縋りて遊ぶ土用波 室蘭市 前田喜美子 霧襖峡の九戸は老女のみ 伊賀市 片山 妙子

あの路地へ消えし四五人風の盆 所沢市 鈴木 征子 野の風を引つばる蜘蛛の力糸 伊賀市 寺田 ちゑ

霧深く残んの牛の声すなり 横浜市 北川 新 大きくて重し昔のしやぼん玉 宝塚市 本橋 康子

秋蝶は白き腓と坂をゆく 新発田市 じゃすみん 旅人のやうに夏野を通りけり 松山市 近藤 久光

娘呉れと来し青年や泥鰯鍋 鹿嶋市 津田 正義 どの部屋も出入り自由や子猫来る 福岡市 白井 道義

乳飲まず農婦炎暑を背でうけて 金沢市 粟田 久成 春の山呼べばほういと死者生者 長崎県 山口美由喜

夜の更けて踊上手が輪に残り 春日井市 西村 青夏 野あざみや人馬かぎろふ衣川 兵庫県 坂元 初男

星野 椿選

昇りゆく月に重ねて父母を恋ふ

名張市 杉本由美子

老僧の小さく在す土用灸

西尾市 齋藤 佳織

待ち合はす俳聖殿の夏木立

伊賀市 前出美千子

青葉潮四阿に置く旅靴

岡崎市 山口 節子

小正月里訪ふことも遠のきし

伊賀市 松井 和子

蟬時雨ふと立ち止まる芭蕉句碑

伊賀市 山本カヨ子

苔清水西行庵を又訪めて

伊万里市 田中 秋子

生き甲斐は農ひとすぢや稲の花

伊賀市 山下 久美

墓守りの母とふたりの島の秋

東京都 曾根新五郎

彫深き高虚子の句碑露涼し

伊賀市 北村 みち

干魚に浜昼顔に日が落ちて

茅ヶ崎市 中込 陽子

夾竹桃湖中に赤き大鳥居

伊賀市 西村八洲子

麦は穂に風にも色のありにけり

亀山市 鈴木 秋翠

青嵐に古刹の鐘の鳴りやまず

伊賀市 田畑 寛一

舞踏会終りしごとく牡丹散る

名張市 増田 笑子

伊賀山河遠く近くに秋立てり

伊賀市 桑原 陽子

黒南風や幣の吹かるる山の神

岡崎市 三浦 葵水

礎石野に浮雲遊び彼岸かな

大宰府市 門谷 とも

一品は金箔入りの夏料理

西尾市 蓮沼たけし

沙羅の花一つ落ちれば一つ咲き

伊賀市 藤下 恒星

正木 ゆう子 選

暁光や氷柱をすする四十雀

宮崎市 石川 誠一

父さんはどんな手だつた冬の虹

高知市 田村 乙女

凌霄花よじ登る木のあればこそ

伊賀市 福森千恵子

畦道は泥の花道田植時

碧南市 杉浦恵理子

寝て食べて寝て食べて去る帰省の子

所沢市 逸見 彬有

空間を歪ませて発つ黒揚羽

鈴鹿市 吉田 博實

柞葉のははの薄幸花すすき

津 市 鈴木 正壺

ランドセル三色並ぶ養花天

伊賀市 植田美由喜

音ひとつひとつが命誘蛾灯

岡崎市 中井 綾

鼻歌が夫と重なるソーダ水

伊賀市 森永真里奈

送り火をみんなで育て送りけり

所沢市 志村 美好

海の日の海を遠くに本を読む

品川区 阿部 もも

落し文開けては駄目と言つたのに

新居浜市 大賀 康男

小さき子の泥がうれしき田植かな

松山市 近藤 久光

泣相撲腹のすはりし女の児

西宮市 上田 佳子

蜉蝣は水より出でて風となる

伊賀市 池本 準一

虹立つや海にプラごみ溢れても

宮崎市 石川 誠一

日向ぼこ卒寿越ゆれば誰も無口

岐阜県 伊佐治秀一

ラリックの香水瓶の翼かな

岡崎市 中根由起子

裾からげ素手にとつたり鮎一尾

彦根市 松本 勝幸

三村純也選

一湾を茅の輪の中に納めけり	常滑市 竹内 重美	義仲寺を訪ひし縁も翁の忌	大分県 平 英子
田を植ゑる母が小さく見えにけり	岐阜県 伊佐治秀一	シーボルトのおたくさ雨にかがやけり	木津川市 井筒 節子
水車朽ちただ老鶯の鳴くばかり	尾鷲市 若林 柗矢	木の実落つ音の転がる風の径	堺 市 杉山千恵子
水脈を消す風荒くとも鴉の恋	岡崎市 高島 半葉	点となる帰燕の空を見詰めをる	静岡市 岩崎 武士
飯匙倩の皮飾る全長二米	江南市 山口南海子	もてなしのひとつと落葉焚きくれし	津 市 西川 玲子
大試験結果見て未し子の闊歩	神戸市 森田 悦子	虚子とのみ彫られし墓や時鳥	西尾市 齋藤 朗笛
松葉蟹供へ今年の漁仕舞	宝塚市 廣田 祝世	ハンターとして寒林を窺ひぬ	名古屋市 加藤 利尾
梟の首なめらかに振り向ける	御所市 上村 佳与	補陀落の潮に浜木綿咲きつづく	和歌山県 森 京子
梵鐘にまじり聖鐘原爆忌	神戸市 木内美恵子	掘り立てと笥泥のつきしまま	京都府 飯干 孝子
初音して山晴れてくる気配かな	吹田市 西村 妙子	旅の途に夏越の祓賜りぬ	大府市 錦 代

宮坂 静生 選

鬼蜻蜒怒つたやうに来て去りぬ	神戸市 杉岡 壱風	白梅や暗き部屋にて書く手紙	大和郡山市 市川 和仁
月山にケルン積みたる別れかな	鎌倉市 原 あや	翁の忌人と交はること愉し	横浜市 山崎 妙子
大川の雨月に耳を澄ましゐる	神奈川県 川村 五子	風花や生死は竟に同じ数	世田谷区 野上 卓
清貧に僅か近しよ栗の花	松本市 鈴木恵美子	北溟に夕日果てたり盆太鼓	練馬区 淵田 隆道
血液がさらさらになる蟬時雨	神奈川県 川村 研治	やみくもに子の振り回す捕虫網	知多市 五十嵐恵美子
河骨や小刻みに振る巫女の鈴	山形市 鈴木 正子	稲刈って風の見えなくなりけり	名古屋市 小沢 芳治
生国にあらぬ父祖の地鰯起し	横浜市 許勢 元貞	補聴器を外して一人大根蒔く	堺市 椋本 望生
七曲り新樹囲ひの養豚場	鈴鹿市 高尾 彩	熨斗鮑拘り強き伊勢国	奈良市 堀ノ内和夫
合歓ひらく朗読劇の「黒い雨」	所沢市 宮岡 光子	魂の一閃走る御神渡り	札幌市 藤林 正則
帰らざる島見る浜に昆布干す	堺市 木村 良昭	どう見てもライオンに見え夏の雲	松山市 大久保文子

宮田正和選

暮鳴きやみ青き闇もどる

伊賀市 森永 康子

暮鳴くやとんぼ返りの子を送る

伊賀市 宮谷ふさ子

夏つばめ一閃田の面突つ切れり

伊賀市 服部登紀子

松蟬や細るばかりの海女の径

志摩市 手塚 泰子

海霧深く水軍の島包みけり

志摩市 西尾 敬一

荒梅雨や砂漠に消えし国をふと

三重県 福田 優子

妙法の火を生む山の暗さかな

伊賀市 小川ひとみ

涛うらに消えたる海女の磯歎き

三重県 木戸口眞澄

荒梅雨の水面伏目に帰漁船

尾鷲市 中森 泰次

放牧の終り火の山眠りけり

合志市 今村 雅美

相知らぬ父へ黙禱終戦忌

四日市市 佐藤 径

尾を立てて雉の抱卵昼深し

奈良市 上田由姫子

大滝の今容赦なきしぶきかな

宮崎市 山口 好

目の慣れてくるまでの闇花檣

志摩市 松村 正之

山霧のにはかに塞ぐ峠越え

伊賀市 稲森すま子

山風のとめどもなくて白牡丹

横浜市 二宮 英子

大琵琶を囲む山嶺雲の峰

伊賀市 佐々木経子

仰ぎ見て夏の星座を子と探す

伊賀市 柘植由紀子

甲板にあがる甲烏賊大南風

名護市 金城八重子

卯浪立つ島に一つの造船所

四日市市 三木久美子

テーマの部

特選

南朝の黒木御所跡蟬しぐれ
朝涼や笥を落ちる水の艶

片山由美子選

奈良市 渡辺政子
本巢市 加藤万亀子

入選

片山 由美子 選

足跡を波の消し去る実朝忌

半田市 新美 達夫

朝の日を浴びて紫陽花今日の色

堺市 杉山千恵子

朝曇乾き切つたるインク壺

高島市 貫野 浩

山荘の薪割るにほひ今朝の秋

所沢市 逸見 彬有

紅花干す朝の雲行き見てゐたり

伊賀市 宮谷ふさ子

露踏んで朝飯前の畑仕事

狛江市 志村 洋子

栈橋にかもめ列なし朝曇

岐阜市 川上 元子

納豆にきかす辛子や今朝の秋

港区 村上 麻利

新涼や仏間に通す朝の風

名古屋市 光田 道子

朝焼や急変の母落ち付きし

八幡浜市 山口 指月

新雪の山からのぼる朝日かな

伊賀市 和田 柏忠

草刈るや真つ直ぐ射して来る朝日

札幌市 藤林 正則

朝曇散歩をせがむ犬の声

大府市 井村 晏通

朝の月芥子の花びらより薄き

伊賀市 山本 正紀

朝採りの茄子の紺に力満つ

志摩市 廣 波青

山鉾に朝の力の満ちゐたり

横浜市 三玉 一郎

朝食はウッドデッキで避暑の宿

西東京市 黒田 恵子

朝戸繰りをれば囁りひとしきり

伊賀市 服部登紀子

田も畑も眠らせ今朝の牡丹雪

伊賀市 菊山 時子

朝顔の水遣り終へて立ち話

横浜市 岡 まゆみ